

第9回 塩竈市長期総合計画審議会 概要

日 時 平成22年4月28日(水) 13:30~
場 所 塩竈市役所本庁 3階 北側委員会室
出席委員 大滝委員、斎藤委員、水野委員、馬場委員、土井委員、小野委員、今野委員、北村委員、
板橋委員、柴田委員、佐々木委員
欠席委員 14名
塩 竈 市 市長、各部長
事 務 局 総務部政策課
司 会 政策調整監

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告 企業意向調査の結果について(中間報告)
4. 審議 第5次長期総合計画基本構想素案について

【基本理念について】

- (会 長) 本日の議題は、“3つの基本理念、躍動”“創造”“協働”と都市像について意見をいただきたい。何回かに分けて議論してきた第1編～3編の基本方針・施策と、3つの横断的プロジェクトです。このプロジェクトについてはまだ具体的に決まっていない。イメージ、たたき台として示されているだけである。始めに基本理念から説明をお願いする。3つの基本理念は前回どのような言葉で表現されていたのか。
- (事務局) 前回は「地域力」「協働」「いきいき」という3つです。
- (会 長) この基本理念を市民が納得するか、受け止められるかというのは難しい話。もう少し工夫があっても良いと思う。
- (委 員) 「協働」という言葉に魅力を感じる。行政と市民が同じ目線で心をつなげて、楽しみながら街をつくるという思いが含まれていると思うが、必ずしも同じ目線ではないという話も出ている。
- (委 員) 協働と地域力というのは共通している。基本理念の根底は1本なのに3つに分けているのがわからない。
- (委 員) 見た人が1回で分かる様なフレーズが欲しい。「いきいきこつこつみんなで作るまちづくり」とかだと分かり易いと思う。
- (委 員) 10年後の塩竈の未来を描こうとしても具体的なものが見えて来ない。将来が見えるような言葉が良い。市民懇談会や地区懇談会で出た良い意見を今後どのように生かしてしていくのか。町内会長の育成と情報の伝達が欠けているのが塩竈市の問題点ではないかと感じた。地区から出た提案を今後どのように取り上げて具体化していくのか。
- (委 員) 10年後の塩竈の基本的な考えとして、人口減少でいいのか、人口減少にならないような政策を作るのかその辺が見えない。
- (委 員) 簡単なキャッチフレーズは都市像に用いた方がスッキリする。基本理念はこれでいいと思う。
- (委 員) 他にどのような言葉が出でこの3つに落ち着いたのか。1つの言葉に絞っても良いと思う。
- (事務局) 前回は“地域力”と、それを活かす“協働”、誰もが“いきいき”であった。
庁内で4次計画の流れや横断的プロジェクトの内容との調整を図り、市の歴史を鑑み、いきいきと未来に向けて躍動して行くという“躍動”。
また、“地域力”という言葉はどこでもある言葉なので、塩竈らしさを出し、新しい未来を作り上げていくということで“創造”。
わかりやすく、端的に主旨を表すということでこの案になった。
- (委 員) 根底が一つだったら1つの言葉にできないか。“協働を実践した”という認識がないまま5次計画に向かっている現状である。いかにして“協働”していく市民を育てるのか。行政がいかにして市民の力を育て上げるのかを5次計画に載せた方が良い。この計画が基本とする理念は何か。
- (委 員) 基本理念が長すぎる。「地域の魅力としての創造と未来に向けて躍動して支えあう協働のまちづ

くり、このぐらいの短さで収まった方が良いと思う。言葉が羅列されて表現は綺麗だが、市民が見ても分かるような文章が良い。

(委員) 第6回の審議会の時のフレームにまちづくりの基本理念がわかりやすい。

(事務局) 基本構想の素案に、11ページ以降に基本的な体系に基づいてどのような政策を行うのかということが言葉で簡潔に示している。そこに2~3行程度で説明がされている。この辺に第6回の資料に示した内容を表記している。

(委員) やはり基本理念というのはしっかり訴えていかなければならないと思う。

(委員) この理念というのはいつの時代もだいたい同じになってしまう。その中で全体像を理解しやすく、読みやすく、分かり易くするのは必要だ。あまり硬い言い方にとつまらない。

(会長) どのようなまちを作っていくのか、という事を考える際には第6回目の「~を活かしたまちづくり」という方が漢字3つよりも分かり易い。これまでの3次4次はどのようになっていたのか。

(事務局) 3次計画では、「市民本意」「自らのまちは自らで」「塩竈という地域の特性を活かした質の高い町」の3本柱。4次計画では4本柱になっており「支えあう心をはぐくむまちづくり」「自然と共生したまちづくり」「地域特性を活かしたまちづくり」「市民と行政の協働でのまちづくり」となっている。他市の計画等も何点かにまとめているという事例が多いようである。

(会長) 引き続いて都市像ですが、今まで塩竈市で10年後の未来像のキャッチフレーズなどを市民から公募しなかったのか。

(事務局) 事例はない。観光のキャッチフレーズとして「社と魚のまち」やロゴマークなどは公募した。前回の経過では、事務局でたたき台を出し、審議会委員の方々にも提案いただいた経過がある。

(委員) 今までの塩竈の都市像・フレーズは。

(事務局) 3次計画は「国際海洋文化都市」、4次計画は「海・食・人がいきるまち」となっている。

(委員) イメージは10年ごとに変わっていった方がいいのか。都市像について塩竈というのをイメージできるような言葉を皆で選ぶべきだ。

(会長) 委員の皆さんにも、是非都市像を考えていただきたい。

(委員) “都市像”というのは、何を捉えて“都市像”と言うかが決まっていなくて使う言葉が出ない。

(会長) 塩竈が持っている大きな資源、地域の持っているいろいろな宝物をピックアップして新しいものを作っていくだけではなく、もっと「市民力を育てていこう」も一つのあり方だと思う。

ただ、“市民力”という言葉を使ったときに、一般の市民がそれを読んだ時にどう理解するか、塩竈だけにぴったりあてはまるのかという問題もある。塩竈らしい市民力とは何かというのが都市像の中にもっと出て行くといい。単に抽象的に“市民力”といっても独自性に乏しく、市民に対して説得力が弱い。

(委員) 「みんながきらめく“うみ”のまち塩竈」「粋々とみんながきらめく」と、簡単にしたら良い。

(会長) 委員から提案をして欲しい。次回はそのアイディアを含めて議論したい。

【横断的プロジェクトについて】

(会長) 次に、横断的プロジェクトの「定住」「交流」「連携」について意見を頂きたい。定住プロジェクトに入る具体的な事業やプロジェクトはどのようなものがあるのか。

(事務局) 基本方針の第1編が“暮らし”の内容、第2編の地域産業に関する部分が“活力”としてあり、第3編の「夢と誇りを育むまち」という部分が“人づくり”として入っている。横軸に「定住」「交流」「連携」のプロジェクトがあり、基本方針の1編~3編のそれぞれの中で、重点的に取り組むものとして掲げている。それらを横断的かつ総合的に取り組んでいくものである。さらに重点的な事業については体系図に記載し、人口フレーム達成の方策として示したいと考えている。

(会長) 縦割りの専門性を活かしながら尚且つ横断的に取り組むには、組織改革が必要になると思うが。

(事務局) 5次長期総合計画のスタートである23年4月に向け、長総推進体制を目的に、組織見直しを検討中である。

(委員) 「良質な住空間の整備」とあるが、これは何をイメージするのか。

(事務局) 第1編4章1節の「住空間の整備」「公的住宅の活用」である。例えば、道路空間、生活道路、緑地の整備を行うことによって良好な生活空間をつくる。市内の未利用地を新たな住空間として整備し、転出の抑制、新たな人口、転入者の呼び込みを図るなどを考えている。

(委員) 市内は子どもが少ない。それは社会構造が変り、核家族になり同居世代が少なくなったという社会背

景もある。一方では、塩竈は道路は狭隘で、平地は地盤が悪いため、なかなか家の建て替えに踏み切れないという事情もある。若い人が転入してくることは困難だと思う。

(事務局) 定住人口の定着は大きな課題である。法的な制約の中、行政サイドでどこまで打ち出して行くのが我々の課題と捉えている。そういった中で、それぞれの分野で何をやっていけるかということそれぞれの課、それぞれの係が一つひとつ吟味し、取り組むべき内容の大まかなものを「定住」の縦の欄に示させていただいた。

(委員) 塩竈市の道路状況は高齢者にとって歩きづらい。今後整備する予定はあるのか。

(事務局) 東塩釜吉津線のことだと思われるが、現路線の改良について、関連する県道の整備計画との調整を図り、どのような形で整備をしたらいいのか今、検討中である。

(委員) 「魅力ある定住空間を創造します」とあるが、高齢者にとって本当に塩竈は歩きづらい空間がたくさんある。市全体を見回したときに、皆が住みやすい道路を作っていくことも定住空間の創造である。歩きやすい道路整備を望む。

(事務局) 道路の整備状況だけを捉えて比較すると、塩竈の舗装率は平均より高いというデータが出ている。ただ、ご指摘の通り、道路は狭く、坂道がたくさんある。具体的な解決策として、平成22年度に坂道の途中に休憩できるようベンチを設ける予定である。100円バスもこの町にふさわしいように狭い道路も通れるよう小型バスに切り替えた。

【人口フレームについて】

(会長) 最後に人口フレームの話をお願いします。

(事務局) 前回の審議会で、目標人口を55,000人にしたいという提案をした。このままだと平成32年には51,201人になり、目標人口との差の3,800人を確保する具体的な展開が必要である。

昨年の12月から今年の2月に行った転入転出者に対する窓口アンケート調査結果をもとにシミュレーションを行った。

転入人口の抑制策として、1つは“生活環境の改善”による人口の増加で約900人。2つ目は“子育て環境の改善”による人口の増加で約1,200人。転入人口の増加策として、“産業振興”による人口増加で約700人。“中心市街地活性化”による中心部への住居促進と“北部地区街路整備に伴う住宅開発”で約700人。合計で約3,500人を確保したいと考えている。それらによる生産年齢人口の増加に伴う出生数の増加で300人。合わせて約3,800人を確保したい。

これらを、基本計画策定の中で具体的な施策を検討し、人口を積み上げたいと考えている。

(委員) 「中心市街地の高度化」というのはマンションなのか、それとも市営住宅をイメージしているのか。

(事務局) マンションを想定している。海辺のマンションという形で眺めが良く、交通の利便性も良い所で転入の誘導策にしたいという考えである。

(委員) 個人的な意見になるが、マンションは一過性ですぐに人口は増えるが、また減る。高度化は否定しないが、運用の仕方を工夫して欲しい。

(会長) 人口を増やしていくのはたとえ10年間とはいえかなり大変なことと思う。いくら予測を積み上げてもそれで全部解決するという話ではない。人口問題については色々な検討があってもいいと思う。

(委員) 3,800人増やすために費用がかかるが、それが結局無駄になる可能性もあると思う。人がここから出て行かないような町になる為にお金を使うような事が必要。人口は増えなければならないのか。

(委員) 例えば51,000人の人が住んでいてその人たちがこの町に住んでいて良かったとなればそれでいいと思う。

(会長) 今後も人口フレームについては何度か協議していきたいと思う。都市像のキャッチフレーズは宿題とする。

次回の日程は、5月の最後の週から6月の1日までの間で調整していただいております。

都市像についてのご提言につきましては、5月14日までに返送いただけるようご協力をお願いいたします。